

# 現代経営学演習

担当：藤原 賢哉

## I 演習の目的

現代経営学演習は、専門職学位論文を作成するための研究指導（演習スタイルの授業）です。通常の修士論文では、学界に対する貢献やアカデミックな厳密性が求められますが、専門職学位論文は、それらに加えて、経営実務に対するインプリケーションが求められます。つまり、経営学の論文であると同時に、実務社会（経営幹部、同業者、産業界）に対する知見やメッセージを含んでいる必要があります。このように書くと、何か、非常に難しいことをみなさんに要求しているように思われるかもしれませんが、基本的には、1) 実務上の課題や研究テーマについて、既存のアカデミックな概念を用いて定式化する（問題を正しくとらえる）、2) 分析手法について学び、自分の研究課題に応用する（手順に従って仮説検証等をおこなう）、といった作業が適切に行われていれば十分です。

上記の2点は、通常の修士論文でも求められる作業ですが、専門職学位論文の場合は、研究テーマが、実務的かつ社会現象全般にわたるため、勉強しなければならない範囲が広がります。つまり、ひとつの研究テーマに対してひとつの学問を勉強すればよいのではなく、MBAを通じて学習したすべての知識（あるいはさらにそれらを超えた知識）を総動員して、専門職学位論文を作成しなければなりません。

ただし、この作業を一人で行うことは困難です。現代経営学演習では、少人数での授業を通じて、学生が取り組もうとしている研究課題は何か、それが社会に対してどのような含意を持っているのか、どのようなアプローチ方法により問題を解決しようとしているのか、といった事柄について、所属ゼミ生と指導教員が、問題意識を共有化（共感）し、建設的な意見の交換、アイデアや分析方法の教えあい等を通じて、専門職学位論文の完成を目指すこととなります。論文自体はあくまでも個人の責任で執筆・完成することになりますが、教員としては、論文完成というマラソンの「伴走者」として、研究指導を行いたいと考えています。

## II スケジュール

### ① 9月18日(土曜日) 対面授業(教室未定)

午後からM2の研究発表会がありますので、演習自体は午前中(1・2限目)のみです。

- ・各自の自己紹介(各自5分程度、パワーポイントまたは口頭のみでもOK)
- ・教員の自己紹介(教員の研究テーマ・プロジェクト等)、TA等の紹介
- ・ゼミの運営方針・スケジュール等・提出物管理・連絡方法等の確認
- ・次回ゼミの課題提示と提出期限等について説明します。

パソコン等は各自準備してください。なお、ポスターセッションは、専門職学位論文のテーマ、構成・分析方法等について、よく観察して、各自の論文執筆の参考にしてください。

### ② 10月23日(土曜日) オンライン授業

グループワーク(デザインシンキング型授業)を実施します。グループごとのチーム作業ですが、各自のテーマに置き換え、解決方法や研究アプローチについて考えるための一つの機会としてとらえてください。(オンラインホワイトボード miro 等使用予定)

- 1限目 アイスブレイク、授業説明、宿題結果の共有化・課題決定
- 2限目 課題深堀、アイデア・ビジネスモデル検討・解決ストーリー①
- 3限目 ゲスト講演(TBA)
- 4限目 状況中間発表、アイデア・ビジネスモデル検討・解決ストーリー②
- 5限目 ストーリー最終作業、グループ発表、全体振り返り

### ③ 1月29日(土曜日) 対面授業予定(教室未定)

午前中は、研究科内で利用可能なデータベースの種類、参考文献の探し方、論文執筆の仕方(基本的な約束・作法)について説明します。午後は、各自の研究テーマについてプレゼンテーションしてもらいます。

- 1・2限目 データベース紹介と論文執筆作法の講習(図書館、TA、教員)
- 3～5限目 各自テーマ発表(一人18分程度(質疑応答含む))。
- 1) テーマ(演題)、2) 問題意識(動機)、3) 分析概要(研究内容と結果予想)、4) 研究スケジュール、についてまとめたものを、パワーポイントもしくはワード等で発表してください(直前にファイル等を全員で共有できるようにしておいてください)。

### ④ 3月5日(土曜日) オンライン(もしくは対面)

各自の研究内容について、ひとりずつ詳しく説明してもらいます(個別面談形式)。

4月以降の研究スケジュール、参考文献の読み解き状況、検証課題の具体化、分析方法、定量分析、アンケート調査の方法・タイミング等についても詳しく伺います。  
概ねおひとり30分～40分程度を想定しています。

### Ⅲ 今年度の目標・進め方

演習担当者の専門は、金融・ファイナンスですが、昨今の環境変化（デジタル技術の進展、新型コロナに伴う社会構造の変化、SDGs・ESGの重視）を受けて、金融業界周辺の話題のみならず、デジタル社会やイノベーション推進、社会インフラの革新、ライフスタイルの変化といったテーマについて、広く議論したいと思っています。

まずは、皆さんが抱えている問題意識や研究テーマを伺ったうえで、分析方法（定量・定性含めて）や研究の方向性についてアドバイスしたいと思っています。

来年度以降のゼミのスケジュール感は次の通りです。

2022年3月～4月ごろ（副指導教員の選定）

5月～6月（副指導教員へのコンタクト・説明・アドバイスもらう）

6月 MBA論文の論題提出（教務提出）

7月 卓越論文発表会（3本）（6月ごろゼミ指導教員が推薦）

8月 学位論文提出締め切り

9月 修了者発表会（ポスターセッション、合格者のみ）

秋以降 加護野忠男論文賞の候補選定と選考

### Ⅳ 専門職学位論文の評価基準について

1. 論文に対して誠実かつ真摯に取り組んでいること。
2. 仕事で抱いた問題意識に関連したテーマを設定していること。
3. 現実に対して意味のある結果と含意を導出していること。
4. その結果と含意を導くプロセスが信頼に足り、説得力があること。

### Ⅵ ゼミ生に求めること

専門職学位論文の作成作業がメインとはなりますが、そもそも、なぜMBAに進学して、自分は何をしたいのかということに常に意識するようにしてください。1年半はあっという間に過ぎ去ってしまいます。過去の演習担当をしていて感じるのは、何をやりたいのか、何を解決したいのか、という問題意識が明確な方（他者にわかりやすく説明できる方）ほど、質の高い専門職学位論文の完成につながっていたように思われます。幅広い視点、柔軟性とフットワークの良さ、他の受講生に対する誠実な対応が、ゼミの時間を有益なものにすると考えています。